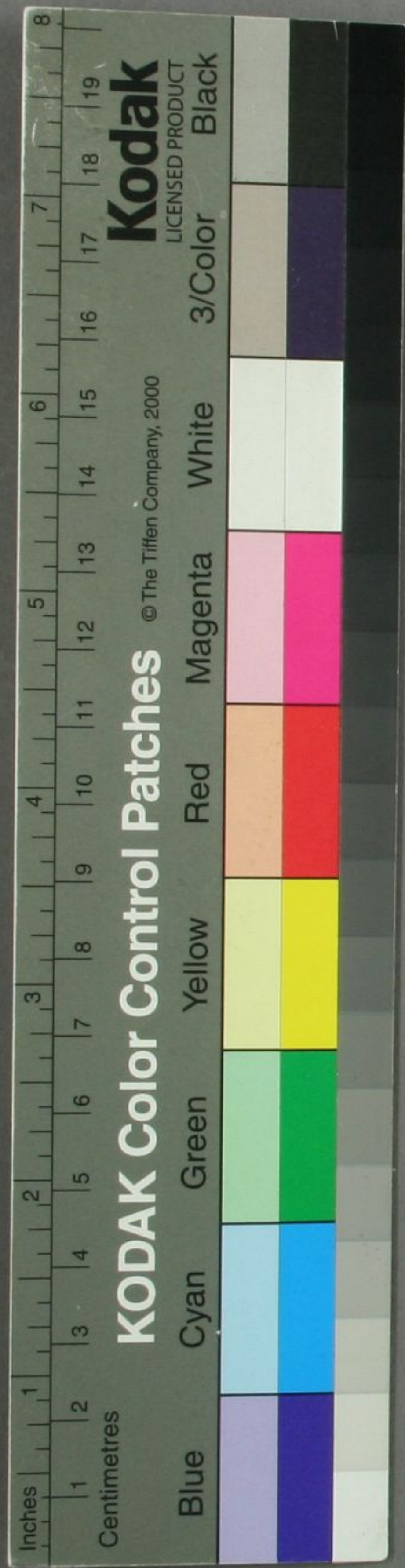




中村俊定文庫
文庫 18
847



新竹庵主人居士追慕

竹
淚

の
ね
る
葉

桂
木
の
花
枝

竹
の
葉

淚

雨

竹
白

二

華

泣

華竹庵圖
華竹庵圖



志す人なり
生いぬるに
ふたに
ふたに
ふたに
ふたに

花より似る花
 なる雪の
 うみれ

梅之玉



萃竹庵萬戶居士墓碣銘



君諱長德字伯惠別字萬戶稱文八郎對鷗其號金
 井氏少小醇謹慎守先業家聲日振性好騷雅最長
 於俳諧從遊者夥又喜疊石為山饒有幽趣尤薦嗜
 古碑榻本寓內碑本莫不蒐羅好赴人之危不少尤
 豫遍涉獵國史歷朝治忽興敗牢記在心時羣往事
 足資鑒誠者以訓迪子弟晚造一小亭環植以竹獲
 前右府華山院藤公呼書萃竹庵字顏亭數々會雨

傳於其中評隲先賢展玩古書畫以娛適辛巳天保
三年壬辰五月十八日病沒享年六十又三法謚萬
戶從葬島村先人之絕次疾之棘也意象安閑所談
莫非風騷韻事一日聞杜鵑鳴援筆賦俳句奄然逝
此可以概其風神矣其先士族以武顯而退隱于農
住上野州佐位郡島村世以富豪聞考諱長久以螟
蛉子入繼妣金井氏君娶多賀谷氏生四男二女男
繁時敏澤吉壽繁澤吉早亡時敏為嗣女長矢季適

尾島某繁字子章有才學嘗從先子遊其卒也予實
文其墓予因子章賢想像其家風之懿思一見乃翁
未能酬素願而時敏遽報訃且請銘玄宅予烏堪感
愴之切乎時敏行醇而多文藝金井氏之福未央者
於此乎在也系曰

生長於素封而清慎勤儉以飭身潛耀僻在田野而
內行足愧勸縉紳鑒流風之遠垂美乎千春奚必待
於予之文

天保三年壬辰後十一月

幕府待問儒真
紫溟古賀煊為文

竹の枝から葉の附言

[illegible]

梅雪——縁——ささの影けい
苔も雪野もささの影けい
まなつ——いさな——いさな——
山——いさな——いさな——いさな——
古——いさな——いさな——いさな——
めい——いさな——いさな——いさな——
えい——いさな——いさな——いさな——

まなつ——いさな——いさな——いさな——
まなつ——いさな——いさな——いさな——
まなつ——いさな——いさな——いさな——
まなつ——いさな——いさな——いさな——
まなつ——いさな——いさな——いさな——

ぼく——初——いさな——いさな——
神代——いさな——いさな——いさな——
月——いさな——いさな——いさな——
あ——いさな——いさな——いさな——
ね——いさな——いさな——いさな——
か——いさな——いさな——いさな——
ま——いさな——いさな——いさな——
中——いさな——いさな——いさな——

竹枝のそよ風もささるる
あゝ多き水もささるる
杖とさるる藤もささるる
馬の尾もささるる
月琴のうたもささるる
あはれもささるる

月琴のうたもささるる

初めはささるる
夕暮の陽もささるる
山はささるる
青松舎主人六十初度賀
信もささるる

夏之部

あゝ多き水もささるる
子規の浦もささるる
ささるる

謝 賜 詩 云 云

[illegible][illegible]

好學是也

去聲也 舟操正 各 子 子

神の御子あれはものふおとろし
未だしり川を渡る人あり

班

海峽の松竹

清江部

かつしゝの富や物あはれとてあき
よしきとむら帆走へる舟

秋
ノ
部

楓よりさくらさけるふらさきさき
 うらみさくらさけるふらさきさき
 常ちの神さくらさきさきさき

熊野吟

あきつゝもみぢきつゝもみぢ月の秋

江島道遠

魚多し一層しつゝ月夜

漁余懐古

城あやもれもさきより秋さき

金澤お泊

文りや浪ふきつゝさつて

能化を恥ぢ

秋の持ふお地を揺るふさつて

二石路のさき

帝中あふしの末端にさき

まのさき上げおぬしと月さき

るをねこしと角田川をね

るをねこしとさきとさき

山も水もさきとさき

龍蔵を庵

なれり秋のさきとさき

冬と部

あきつゝもみぢきつゝもみぢ

梅あきつゝもみぢきつゝもみぢ

雪の結を投げてやうに舞ひまわし一付して
目もくらやみなるやうに舞ひまわし懐旧の情を
ふりかへたことも其の故に編みこみ同好
の心をもてたの故に
面影のいさよふらふに
佳夕

こころを思ふに
さふさふと照らす月

東都まわりの風景の記

けしきに秋さながら 海晏寺

麻呂を綱

赤流の月照らす

仙居の姿を
ふりかへ奉納

赤流の姿を
ふりかへ奉納

ふりかへ奉納

追善廻禮

金右衛門忠清

二三の夜夢をうけてしるすをいふ
たふふおのれにこそあらはれ

こゝろをいふ事思ふに

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

おのれにこそあらはれ

持よりふ丸まゐるる様う年
 庭静ふなりや様ふつら神を
 生るる我々埋めたるはなるハ
 一りまゐるる旅りり敵う家
 去れりてんへぬゆく日木の花
 初より初よりつらふ少神
 思切くあゝとあゝなる様
 松のりやわ〜や付〜は〜ん
 空〜〜〜〜〜初〜
 山

上サカイ 青
山中 長
甘木 江
上イヨク 一
武井谷 古
江戸 竹
小斗 山
上極木 市
 田
 山

我〜〜〜〜〜
 露ぬるり麦の上なる様
 掃〜〜〜〜〜
 海〜〜〜〜〜
 さ〜〜〜〜〜
 吹〜〜〜〜〜
 浦〜〜〜〜〜
 古乃乃作時を建ちく
 風吹く川〜〜〜〜
 おさ〜〜〜〜〜

上サカイ 眺
三可 石
木サキ 雨
 西
 後
吉田 義
赤井 一
古カキ 雨
 中
 橋

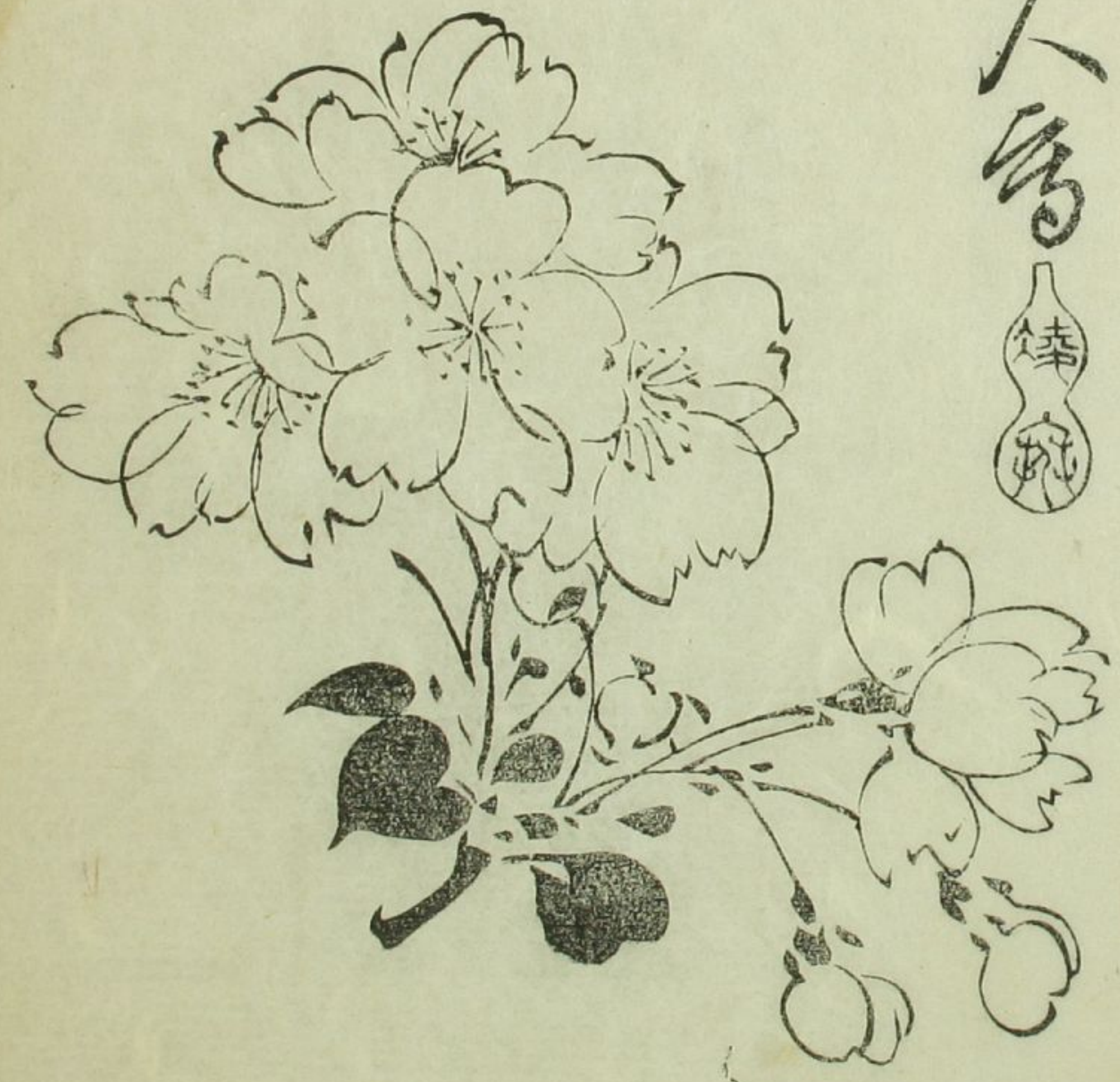
保旭
 柳翠
 富北
 中眠
 四海
 木サキ
 村中
 坦臨
 梅宮
 田垣

阿半
 古用
 櫻
 ちち
 入り
 片
 双
 片
 清
 新
 一好

胎ありつり月ふらつふはるる川、
 正しくも花の嬌をみるも金し、
 又雲のさるるりもせり初さるる、
 暮るるも花のさるるさるる川、
 亡くり付度しる川橋、
 玉器路の橋をたしや山出る、
 日さるるも花のさるるさるる中、
 花れもさるるさるるさるる橋、
 花れもさるるさるるさるる橋、
 花れもさるるさるるさるる橋、

新嘉 甫山 多流 林夕 玉英 鳥え 汶破 桂白 吉下 角勢

花のさるる



蜀道をて屋上りちまれ重
いしきき啼き能はく雪の空
ふりて人きまれる腕
あま能乃まいたるこねる
船のおもきききききき
作らまけきききききき
枯きききききききき
ききききききききき
舟きききききききき
ききききききききき

武 叙
一 止
西 本
三 好
一 口

月をききききききき
枯きききききききき
二月ききききききき
いしききききききき
海ききききききき
けききききききき
鞍ききききききき
木ききききききき
きききききききき
きききききききき

武 下
一 止
西 本
三 好
一 口

啼たもけりしうけし
枯きもけりしうけし
振るもけりしうけし
膝立つもけりしうけし
けりし思ひぬん
藍梅もけりしうけし
雪のけりしうけし
るもけりしうけし
けりしうけし
けりしうけし

武 山好
上 雲を
木 茶礬
武 東川
武 桂圃
都 向榮
都 雪み
上 眺子
上 西詠
上 心機

けりしうけし
枯きもけりしうけし
向きもけりしうけし
啼きもけりしうけし
けりしうけし
一もけりしうけし
在りしうけし
名もけりしうけし
啼きもけりしうけし
心機もけりしうけし

大 吟家
上 松葉
上 梅
武 夏曉
上 雲山
武 文在
上 盈々
武 東谷 桃角
上 中
上 梅倚

月 丸
三 所
境
南 桂
新 餅
菱 長
一 思
雲 油
王 石
碎 石
江 戶
五 志

Reverend

月夜

[illegible]

桃右 湖船 侶業 曉里 窓哦 文長 日謙 地月 倭之磁

[illegible][illegible]

子細に就きつゝふかきん
振金のさゝくさくふく月
庖丁はひらめくさく月
柿のうらふさくさく月
七中の一おきくさく月
蓮のうらふさくさく月
あゝとさく月さくさく月
そはくさくさく月
十うさくさくさく月
そのうさくさくさく月

赤井
ハ和
三所
不
本
業
一
子
梅
糸
糸

お

ちき目さくさくさく月
あゝとさく月さくさく月
月さくさくさく月
月さくさくさく月
月さくさくさく月
月さくさくさく月
月さくさくさく月
月さくさくさく月
月さくさくさく月
月さくさくさく月

中江
糸
糸
糸
糸
糸
糸
糸
糸
糸

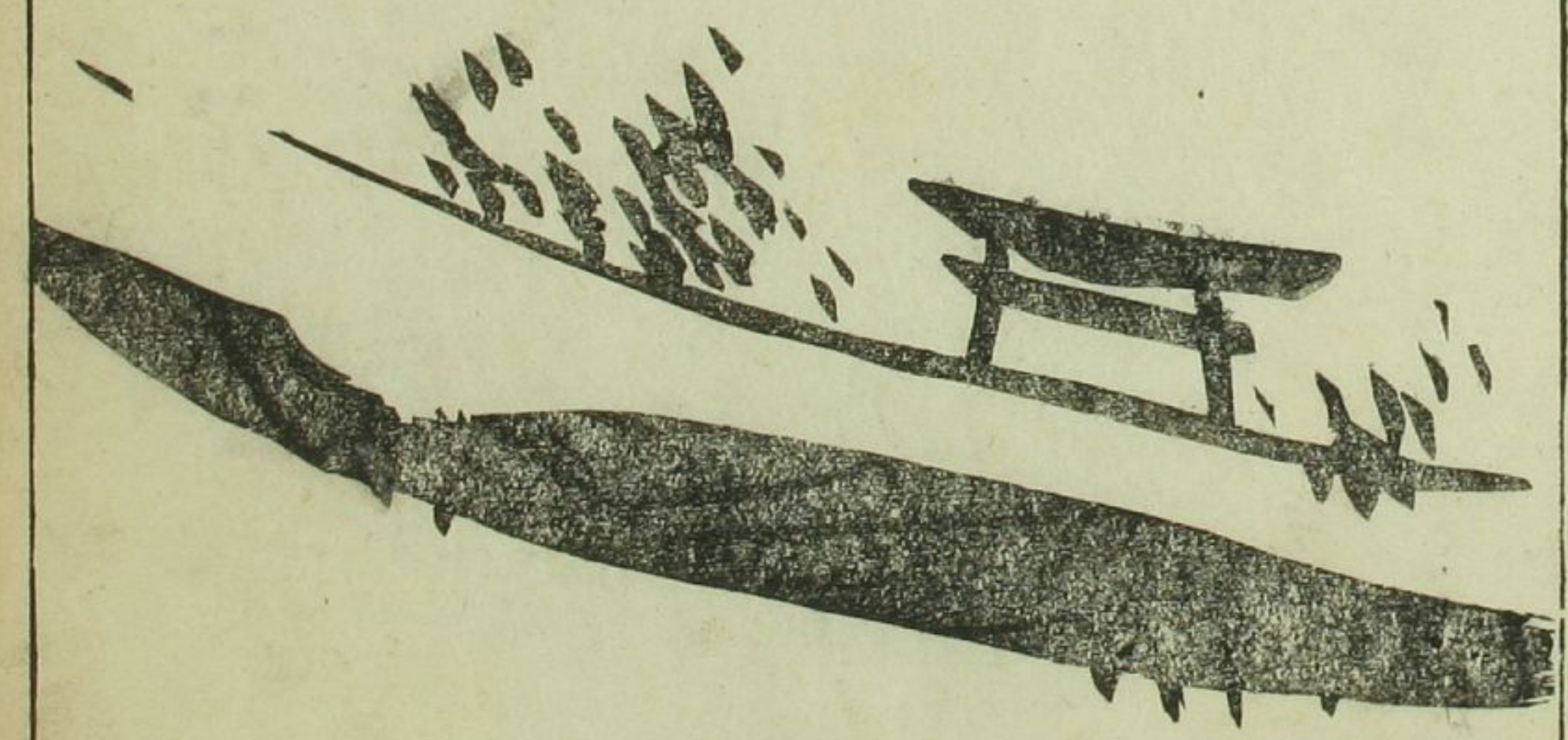
お

加ふる月夜青の味の中
 志けくを力に解いて方の
 名月の如くまゝなる心
 林のさうさくは月夜の
 月影をまじへて静寂
 雲やうきうきと月影
 様千少様さう勢田の力人代
 挽くも静き月夜の風情は
 用のまゝ人のまゝ月を有
 柳のまゝ月を有わさ

上 上 上 上 上 上 上 上
 日十 丁 二 一 秀 以 言 力 永 与
 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

南湖周

晋子印



石のうへに雪をえりて月のお
 湖岸へくく雪をえりて
 雪のうへに雪をえりて月
 松のうへに雪をえりて月
 月をえりて雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月

多の
 冬
 一
 車
 標
 観
 六
 公
 可

雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月

雪の部

雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月
 雪のうへに雪をえりて月

雪
 一
 一
 一
 一
 一
 一

椅椅有幾君
あらん多し
やうき
上

見玉郡

見玉郡長
馬山
上

見玉郡長
馬山
上

見玉郡長
馬山
上

見玉郡長
馬山
上

本庄

以之

馬山

富山

馬山

磨山

良月

新屋

森田

木中

木中

山塚

山塚
上

山塚
上

山塚
上

山塚
上

山塚
上

山塚
上

布休

柳中

三島

山塚

標乙

風林

洗布

飛水

なま

肯竹

寂しき庭をしのむ戸は
 けしきくわくけしきくわく
 山里のまのまのまのま
 雪のまのまのまのま
 まのまのまのまのま
 初雪のまのまのまのま
 雪のまのまのまのま
 まのまのまのまのま
 雪のまのまのまのま
 おのまのまのまのま

上赤
 一
 梅
 雪
 雪
 雪
 雪
 雪
 雪
 雪
 雪



閑林



あふらふあふらの流れて松竹

桂林

月とほろこふあふこころをて
けり家紙は原のわが歌が
あふらふこころ

あふらのあふらふのこころ

三枝

追悼之吟

あふらふあふらのあふらふ
あふらふあふらのあふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ
あふらふあふらのあふらふ
あふらふあふらのあふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

あふらふあふらのあふらふ

あふらふ

阜平

楚陌

月院社
評九

[illegible]

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

同

廣川鈴木惟親

締交憶昔世自今莫逆笑談長月進升彩
如多情又露知以好耳感枯蟬一園幽致
興頓盡二國風流道永澄子之孝家之限
恨滿第書讀幾千篇

張全馬健張全

小西館白

水月寺 松田平三

翠

竹庵

萬

戶

風

士

竹

落

葉

竹

藏

翠

庵

萬

戶

風